

平成28年度 第3回 十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事要旨

日時：平成29年2月23日（木）15:00～17:00

場所：とちろ広域消防局庁舎3階 屋内訓練場

■ 出席委員（21名）

志賀委員（座長）、菊池委員、泉委員、鳥本委員、荒委員、平林委員、白石委員、高橋委員、宮澤委員、高倉委員、吉田委員、仲沢委員、橋枝委員（副座長）、小倉委員、今川委員、沼田委員、小笹委員、福原委員、松田委員、松本委員、長澤委員

■ オブザーバー

音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、更別村、広尾町、幕別町、池田町、本別町、足寄町、浦幌町

十勝圏複合事務組合、十勝総合振興局

医療・福祉作業部会、教育作業部会、産業振興・地産地消作業部会、環境作業部会、人材育成作業部会、企画作業部会、消費生活作業部会、電算システム作業部会

■ 事務局

安達政策推進部長、池守政策推進部政策室長、河原政策室政策担当企画監、竹川政策室政策副主幹、村上政策室主任補

■ 会議次第

- 1 開会
- 2 議事
（1）PDCAサイクルの構築について（資料1～3）
- 3 その他
- 4 閉会

■ 議事要旨

1 開会

○座長から挨拶

2 委員、オブザーバー、事務局紹介

○委員29名中21名の委員が出席し、過半数に達しており、設置要綱第6条第2項の規定により、会議が成立していることを報告。

○会議資料の確認

3 議事

(1) これまでの経過と今後の進め方について(資料1)

【座長】

それでは、議事に入ります。はじめに本日の進め方について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

お手元の提出資料1をご覧くださいと思います。A4横の資料でございます。まず左側でございますが、今回は今年度3回目の会議ということで、国の要綱改正を踏まえまして、中長期的な人口の目標や成果指標について協議をいただくものでございます。右側でございますが、大きく前半、後半に分けて進めます。前半ですが、国の通知内容をまず確認し、その後、人口などの目標について事務局から説明した後、意見交換を行いたいと思います。後半でございますが、それぞれの分野ごとの成果指標について、事務局から考え方を説明した後、全体を3つに分けまして、各作業部会から指標の設定の考え方などにつきまして説明いたします。その後、質疑、意見交換ということで進めてまいります。それぞれ、①から③の順に説明、質疑という形で進めます。進め方は以上でございます。

【座長】

事務局の説明のとおり、国の通知内容を確認した上で、人口等の目標や成果指標について協議を行いたいと思います。

進め方について、ご質問などはございますか。

(質問・意見なし)

【座長】

なければ、事務局の説明どおり、懇談会を進めてまいります。

それでは、はじめに、国の通知内容の確認と人口等の目標設定について協議を行います。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

お手元の提出資料2をご覧ください。A4縦の1枚ものでございます。はじめに、総務省の通知内容を確認したいと思います。ポイントは4点あり、1点目は、今年度中に成果指標等を設定し、PDCAサイクルを構築すること。これはビジョンを改訂するというところでございます。2点目は、圏域の将来像、ビジョンの第3章ですが、ここに中長期的な将来の人口、高齢化率などの目標を定めること。3点目は、事業単位または施策単位の成果指標を定めること。4点目は、医療・福祉、産業振興など、政策分野ごとの基本目標を設定することが望ましいこと、以上が通知内容でございます。

前半はまず、人口の目標等について協議したいと思います。2番の「中長期的な将来の人口、高

「年齢化率等の目標」をご覧くださいと思います。事務局の考え方が5点ございます。1点目ですが、各市町村で平成27年度に地方創生の関係で人口ビジョンを策定してございます。この中で、将来の人口推計、あるいは将来の人口展望ということで、例えば2040年、まちによっては2060年というような中長期の視点で将来人口を示しております。定住自立圏として、十勝全体の人口を独自に推計することも検討いたしましたが、既に人口ビジョンとして各市町村で示しているものを圏域として着実に達成していくという考え方に立ちまして、独自の推計を行わず、人口ビジョンの人口展望の数値を合算する考え方でございます。2点目は、国は人口の「目標」を定める旨を通知しておりますが、各市町村の人口ビジョンの中では、「目標」「見通し」「推計」など、取り扱いが異なっております。帯広市の場合は「将来展望」という表現をしております。従いまして、一律に「目標」とするのは困難と判断し、表記としては「将来展望」という形で整理しようという考え方でございます。3点目は、どの時点の人口を展望するかということですが、2040年としてございます。ご承知のように、人口動態、特に出生・死亡という自然動態については、長期にわたって現在の人口が影響を及ぼしていくもので、短期的な改善が難しいということがございます。また、国の研究所が示している将来推計がございまして、これが2040年まで出ている。各市町村の人口ビジョンも、どの時点の数値を示すかはまちまちですが、2040年は全ての市町村で数字が示されているという状況です。こうしたことから、2040年の人口を展望するという考え方でございます。4点目は、どのような数字をお示しするかですが、十勝全体の総人口に加え、年齢構成を加味していくため、年少人口比率、生産年齢人口比率、高齢人口比率、これは国の区分に従っておりますけれども、この3つの比率を全て掲載するという考え方でございます。5点目ですが、人口の将来展望を示して、この懇談会の中でどのように取り扱うかということですが、毎年度、各市町村の住民基本台帳を基本として、十勝全体の人口を計算し、報告する考えでございます。その数字が、将来展望人口と比較してどうか、その背景を含めてご報告し、ご議論いただければと考えております。以上が、資料2の人口の目標の考え方でございます。

次に、提出資料3をご覧ください。まず目次ですが、第1章の5番目に「定住自立圏の成果目標」ということで、観光の数字とバスの乗客数の2つを目標として持っておりますが、今回、より細かな設定をしておりますので、ここからは削除し、第4章の5番目、「基本目標兼成果指標」に全て一覽で掲載しております。それから、人口の部分でございまして、大きくは第3章、圏域の将来像のところ、2040年の人口を掲載しておりますけれども、国が行った推計と比較するというところで、13ページに国の推計を掲載しております。

まず13ページをお開きいただきたいと思います。第2章の5番、「将来推計人口」をお示しております。出典は、国立社会保障・人口問題研究所が平成25年3月に公表しているものでございます。目標にしている2040年をご覧くださいと、総人口が272,361人となっております。その下に、それぞれ年少人口、生産年齢人口、老年人口を掲載しております。次に、36ページをお開きいただきたいと思います。圏域の将来像の右下に数字を掲載しておりますが、こちらが市町村の人口ビジョンに示されている数字を合算したものでございます。総人口が305,126人で、先ほどの国の推計272,361人と比べますと、33,000人ほど多いという推計になります。年少人口、生産年齢人口、高齢人口の比率を掲載しておりますが、国の推計と比べますと、生産年齢人口比率はほとんど変わりませんが、年少人口比率が国の推計よりも4%多い、逆に、高齢人口比率が国の推計よりも少ないということで、市町村の推計の方が比較的若い年齢構成ということが特徴でございます。

ここで事務局から修正がございまして、13ページの国の推計ですが、年齢3区分人口の割合が載っておらず、展望人口と比較しにくいので、13ページに割合を追加したいと思います。36ページは逆に、割合はありますが人数が出ていないので、こちらには人数を追加し、比較しやすいようにしたいと思います。

人口についての説明は以上でございます。

【座長】

ただ今の説明について、質疑・意見交換を行いたいと思います。各市町村の人口ビジョンを基

にして、共通に示されている年次である 2040 年を、「人口の将来展望」という表現で共生ビジョンの数字にする。各市町村とも住民基本台帳で人口を把握しておりますので、それを基に進捗度合いを見る。総人口の他に、年齢 3 区分、一般に使われているものですが、そういうものを含め数字を見ていくという説明でございました。

お手元のビジョンですと、13 ページに割合を追加して、36 ページには人数を追加するという修正をしたいということでございます。

どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いいたします。

【委員】

人口の将来像ですが、国の推計と十勝の市町村の数字が違うと思うのですが、国は地域の特性を熟知してこういう数値を示しているのか、一律の考え方なのか。どちらの推計が真実味があるかということですが、十勝は他地域に比べると大きく減少していない。いろいろな要素はあると思いますが、維持または若干の減少となっているところです。国の推計の考え方など分かれば教えていただきたいですし、市町村はどう推計しているか聞かせてください。

【事務局】

国は、過去の人口の動きを見て、それが将来も続くと仮定した中で推計しております。一方、市町村の将来展望は、今後の取り組みを加味して、人口対策を講じた場合にどうなるか見ておりますので、例えば、少子化対策を行うことで、出生率が人口の置換水準である 2.08 まで達するとか、地域経済の振興により転出超過が収まっていく、こういう仮定のもとに展望人口を推計しています。大きくは、今後の取り組みを加味しているかどうかということが、推計の違いということになります。

【委員】

最終的に、二つの数字を一本化するのでしょうか。

【事務局】

国からの通知は両方を掲載してくださいということでして、これまでの流れでいけばこういう人口になるところを、今後の取り組みによってこれだけの減少にとどめるということが比較できるように、両方を掲載したいと考えております。

【座長】

何もしない場合が 13 ページで、共生ビジョンの取り組みなどを行うことで 36 ページのように人口減少をより少なくするというところでございます。

ほかにいかがでございましょうか。

【委員】

16 ページに平成 26 年 4 月末現在の 65 歳以上の高齢者数約 95,000 人とありますが、13 ページは 27 年ですけれども約 98,000 人ということで、推計と実績のズレがあると思うのですが、修正の考えはありますか。

【事務局】

16 ページは平成 26 年 4 月末となっておりますが、13 ページは 2015 年、平成 27 年となっております。若干のズレが生じているということでございます。

【座長】

調べた時期と調べ方の違いということで、最も基本となるのは国勢調査ですが、毎年の数字は住

民基本台帳となっています。16 ページは共生ビジョン策定時のものということですね。

【委員】

1年で約3,000人違うということですが、必ずしもそうではないのではないかと感じたものから。

【座長】

ほかにいかがでございましょうか。

よろしければ、目次の変更のほかに、13 ページと 36 ページは修正を行います、事務局から説明があった修正箇所については、このとおりに修正してよろしいでしょうか。

(異議なし)

【座長】

ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

次に、成果指標の協議に移りたいと思います。はじめに、事務局から、指標設定の基本的な考え方について、説明をお願いします。

【事務局】

提出資料2をご覧ください。「3 成果指標」ですが、考え方を3点整理しております。1つ目は、「基本目標兼成果指標」として設定するという事です。「1 総務省通知の概要」の3番と4番をご覧ください。3番は成果指標を定める、4番は基本目標を設定するのが望ましいとなっております。この意味ですが、提出資料3の37ページをお開きください。成果指標は、37ページの表の「取組項目」毎に設定するイメージです。基本目標はその左、「医療」「福祉」「教育」などを単位に目標を定めるという意味合いとご理解ください。従って、例えば「医療」で一つ目標があって、さらにその下の(1)、(2)にそれぞれ指標があるというのが国のイメージです。提出資料2に戻っていただきまして、今回の事務局案は、そのような設定をするのではなく、基本目標と成果指標を一体のものにするということでもあります。というのは、基本目標と成果指標は、実際のところかなり重複せざるを得ないということと、評価のものさしとして指標を使う際、例えば基本目標の実績は上がったが、その下の取組項目の実績は下がったという場合が考えられます。実績が逆になる、ねじれるという可能性が高いということとでございます。こうなると、良かったのか悪かったのか、総合的に評価するのが難しい状況になりますので、基本目標兼成果目標という形で一つにまとめられないか、国に相談いたしました。結論は、それで結構です、基本目標はあくまでも設定することが望ましいということで、必ずしも成果指標と別に設定しなければならないということではないということでした。次に、その目標を、「医療」というような大きな分野で定めるのか、より具体的な取組項目ごとに定めるかということですが、結論としては、取組項目ごとに設定することとしております。評価のねらいは取り組みの改善につなげることでございますので、具体の取り組みに近い指標を設定することで、改善につなげやすいと判断したものでございます。37ページの表で申しますと、取組項目、(1)(2)という表記をしておりますが、カッコの数字毎に一つずつ定めることを基本としております。最後に、アウトカム指標を設定するという事です、どれだけ事業をしたかという事業量などではなく、どれだけ利用者があったという成果を示すということとしております。この3点を基本に検討を行いました結果が、提出資料3の62、63ページに掲載されております。取組項目ごとに一つずつ指標を設定し、その現状値と目標値をお示しするという形で整理を行いました。考え方については以上でございます。

【座長】

ただいま、指標の設定の考え方について説明いただきました。37ページでいえば、我々が検討し

た具体的な取組項目ごとに指標を設定することとし、成果をみるためのアウトカム指標を設定するというございます。

ご質問はございますでしょうか。

(質問・意見なし)

【座長】

ご質問がなければ、指標の内容について、全体を3つに分けて協議いたします。

はじめに、医療・福祉分野、及び教育分野について、意見交換を行いたいと思ひます。資料3について、説明をお願いします。

【医療・福祉作業部会】

医療・福祉分野に関わります基本目標兼成果指標について説明いたします。

はじめに、「1 医療」のうち、「(1) 救急医療体制等の確保」につきましては、「救命救急センターにおける一次患者の利用割合」を指標としております。帯広厚生病院に救命救急センターがございますが、本来、生命に関わる重篤な患者を受け入れる医療機関でございますが、軽症の患者が来院している現状がございます。そのうち、一次救急の患者の利用割合を指標としたものでございます。平成27年度の現状値は67.1%、平成31年度の目標は64.7%と設定しております。医療機関の適正利用を促進するため、一次救急患者の利用割合を減少させていくのが目的でございまして、第1期共生ビジョンの実績値から平均を割り出し、0.6%ずつ減少させることとしております。

次に「(2) 地域医療体制の充実」につきましては、「管内に就職した看護師数」を指標としております。これは、帯広市内に3つある看護師養成機関の卒業生のうち、進学者、管外就職者を除き、管内に就職した方の数ということになります。平成27年度現状値が58名、平成31年度の目標値が、平成28年度から平成31年度までの累計で240人と設定しております。これは、看護師養成学校を卒業して就職する方が毎年60人前後おられますので、毎年この人数程度を確保し、4年間の累計で240人という目標を設定したものであります。

次に「2 福祉」のうち、「(1) 地域活動支援センターの広域利用の促進」でございますが、成果指標として「地域活動支援センター広域利用希望者の受入割合」としてしております。これは、お住まいの市町村ではないセンターの広域利用を希望する方を受け入れている割合というものでございます。平成27年度の現状値が100%、平成31年度の目標も100%としております。センターの広域利用について受入機会を確保し、希望する方がみなさん広域利用できる状態を維持することを目標とするものでございます。

続きまして「(2) 保育所の広域入所の充実」ですが、成果指標を「保育所広域入所希望者の受入割合」としてございます。こちら各市町村にあります保育所につきまして、出産などで一時的に里帰りするなどの理由で、他の市町村の保育所の利用が必要となる場合について、これを受け入れる割合ということございます。平成27年度の現状値が100%、平成31年度の目標も100%としております。広域利用の希望者を受け入れる機会を確保するため、現状維持をめざすものであります。

最後に「(3) 高齢者の生活支援体制の構築」につきましては、「介護士復職支援事業等参加者数」としてしております。出産や子育てなどで現場から離れている介護士の方々が復職しやすくするために、現在、帯広市で実施している研修会がございますが、こちらは各町村の方々も参加できることになっておりまして、その参加者数を指標としております。現状値は平成28年度で5名、平成31年度の目標値は、平成28年度から4年間の累計で100人をめざすものでございます。介護士不足への対応が共通の課題となっていることから、市で実施する復職支援の研修会への参加者数を指標として、参加者数を増やしていくことをめざすものでございます。

医療・福祉作業部会については以上でございます。

【教育作業部会】

教育作業部会に関わります基本目標兼成果指標について説明させていただきます。

はじめに、「3 教育」のうち、「(1) 図書館の広域利用の促進」については、「図書館の広域利用登録者数」を指標としております。この指標は、十勝管内の図書館の広域利用登録者数を意味するものでございます。平成 27 年度の現状値 30,166 人、平成 31 年度の目標値では 35,160 人といたしました。考え方でございますが、人口減少と超高齢社会が一層進行していくと見込まれる中であっても、直近 3 か年となる平成 25 年度から平成 27 年度の新規登録者数の平均人数、1,248 人ですが、この程度増加させていくということでございます。

次に、「(2) 生涯学習の推進」については、「生涯学習関連情報へのアクセス数」を指標としております。この指標は、帯広市のホームページ内にご覧いただけます十勝管内社会教育施設情報やイベントカレンダーへのアクセス数を意味するものでございます。平成 27 年度の現状値 45,658 件を、平成 31 年度の目標値では 47,940 件と設定いたしました。昨年の台風被害の影響もあってか、今年度はアクセス数が前年度を下回る状況が続いており、1 月末時点で前年度対比 10%ほど下回る見込みでございますが、情報を充実するなどして、5%増としたところでございます。

最後に「(3) スポーツ大会等の誘致」につきましても、「管内で開催される国際・全国・北海道大会数」を指標としてございます。この指標は、十勝管内で開催されるスポーツ大会のうち、規模が北海道大会以上の大会数を意味するものでございます。平成 27 年度の現状値 61 大会を、平成 31 年度の目標においても同数と設定いたしました。考え方ですが、昨年の台風の影響により、帯広市をはじめ、十勝管内のスポーツ施設が甚大な被害に遭い、競技によっては大会の開催が困難となるなどの影響が生じているところでございますが、管内町村や競技団体との連携のもと、同数を維持するというものでございます。

教育作業部会については以上でございます。

【座長】

それでは、意見交換に移りたいと思います。医療・福祉及び教育分野の指標について、どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いいたします。

【委員】

数値目標と現状値がありますが、例えば「地域医療体制の充実」で、現状値が毎年 60 人、目標値が累計で 240 人、ぱっと見て比較ができない。平成 31 年度も 60 人というなら分かりますが。現状値もこうした出し方ができるのか、少し分かりにくいところがあると感じました。介護士の復職支援も同じです。意見として。

【座長】

このあたりの考え方について、表記が分かりにくいということですが。

【医療・福祉作業部会】

「高齢者の生活支援体制の構築」の中で、介護士の復職支援事業の参加者数という形で目標値を設定いたしましたけれども、現在、介護士不足の現状があり、管内だけでなく全国的にもそういう状況ですけれども、そういった中でも何らかの取り組みを行って、介護士を確保していくということでございます。帯広市が平成 28 年度から復職支援を行っておりまして、近隣の町村を含めて一緒に取り組んでいきたいという話がありましたので、定住自立圏の取り組みとして人数を増やしていこうという考え方で目標を設定しております。同じような考え方で、看護師数につきましても、できるだけ管内に看護師が残るような形で周知等をしていくという考え方のもとで設定させていただいたところでございます。

【座長】

ご質問は、例えば地域医療の目標値が240人としているほかに、毎年60人を目標としながら全体で240人というような表現にしてはどうかということでしょうか。

【委員】

良くなったか悪くなったか分かりやすいのは、例えば現状値も過去4年間の累計が何人であったかという比較であれば、増えたかどうか分かりやすいと思うのですが。

【事務局】

単年度の数字と累積の数字が違う形で表示されているところに、若干分かりにくさがあるということかと思いますが、例えば介護士の復職支援事業は、始めたばかりの事業で過去4年間の実績がなく、しかもこれから大幅に参加者を増やしてまいりますので、単年度の数字を比較するのが適切でないという状況がございます。また、看護師も介護士も同じですが、絶対数が圏域内で不足している中で、毎年どれくらいが就職するかよりも、トータルでどれくらいが必要かということをしっかり見ていかなければならないということもございます。他にも、例えば産業振興や移住など、累計になっているものがいくつかありますが、毎年の数字を見るのがよいのか、トータルの数字を見ていくことが適切なのか、各部会でも議論しまして、トータルを見ることに意味があるものは累計として整理をしているところでございます。

【座長】

今後の評価の際には、これまでどうだったかなど、分かりやすい説明をお願いします。ほかにいかがでございましょうか。

【委員】

「生涯学習の推進」の成果指標が、情報へのアクセス数となっていますが、実際に講座を受講した方の人数でなければ、成果の指標になっていないのではないかと思います。これは指標として集計しやすいものを選んだということでしょうか。

【教育作業部会】

提出資料3の44ページをご覧くださいなのですが、「生涯学習の推進」の取組項目につきましては、圏域住民の生涯学習を推進するため、各種施設の利用促進をうたっております。部会の中では、施設利用者を成果指標としてはどうかという議論もございましたが、管内の施設の中には老朽化しているものもございますし、この先、どの程度の施設が残るのか、あるいは人口減少が続く中で、利用者を指標とするのはなかなか難しいというところでございました。私どもとしては、生涯学習情報を集め、それを広く周知することで生涯学習の機会につながればということで設定させていただいたものでございます。

【委員】

どれだけ情報提供できたかという視点ということですね。

【委員】

地域活動支援センターの広域利用の促進についてですが、障害者福祉については、広範囲にわたったさまざまな事業があると思います。たとえば就労継続支援B型など、同じように広域で利用を希望すれば違うまちで利用することは可能と考えてよろしいのでしょうか。

【医療福祉作業部会】

ご指摘の事業は、北海道知事の指定に基づいて実施しており、もともと各事業者がサービスエリ

アを十勝管内と設定しておりますので、定住自立圏の取り組みに位置付けなくとも、希望される方は利用できることとなっております。

【座長】

ほかにいかがでございましょう。

(質問・意見なし)

【座長】

なければ、以上で、医療・福祉分野、及び教育分野に関する意見交換を終わります。

次に、産業振興・地産地消分野について協議を行います。資料3について、説明をお願いします。

【産業振興・地産地消作業部会】

産業振興・地産地消分野について説明いたします。

まず、「4 産業振興」のうち、「(1) 農商工・産学官連携及び地域ブランドづくりの推進」でございますが、こちらは「十勝産機能性素材を活用した新商品開発数」を指標としております。産学官連携、付加価値向上の取り組みにおきましては、大学や試験研究機関、地域の事業者と調整いたしまして、地域の農産物由来の機能性素材を活用した商品開発・販路拡大の取り組みを指標とすることがふさわしいだろうということで設定しております。平成27年度現状値が4件、平成31年度の目標値を9件としております。目標の考え方ですが、複数年にまたがるプロジェクトもございますので、中期的なスパンで目標達成をめざすものでございます。

次に、「フードバレーとかちの推進」につきましては、「フードバレーとかち推進協議会」という、管内の産学官金41団体で構成している組織の取り組みとして、応援企業というものがございまして、応援企業への情報提供や、「フードバレーとかち」のPR資材の貸出などを行っております。こちらは平成27年度現在366件ございますが、平成31年度440件、約2割増をめざすものでございます。

次に「企業誘致の推進」につきましては、「十勝管内の企業立地件数」を指標としております。平成26年度、27年度の累計が44件に対しまして、今後平成28年度から31年度までの累計56件とめざすものでございます。これは、国に提出している「十勝地域産業活性化基本計画」の中で既に目標設定しておりまして、それとの整合を考慮したものでございます。累計としたのは、立地数が多い年もあれば少ない年もあり、複数年にまたがり推進することでもありますので、このように設定しております。

次に「中小企業勤労者の福祉向上」につきましては、「とかち勤労者共済センター加入会員数」を指標として設定することで、地域の勤労者の福祉向上につながるものと考えております。平成27年度現状値は6,510人でございますが、平成31年度におきましては、この会員数を20%ほど増加させるという目標を掲げ、8,000人をめざすものとしております。

次に「広域観光の推進」につきましては、「十勝管内の観光入込み客数」としてございます。平成27年度の現状値が1,036万人に対しまして、平成31年度の目標値が1,020万人となっており、目標値の方が少なくなっておりますが、これは北海道全体の観光入込み客数の目標があり、計画を定めたものもございまして、こちらに則った数値としているところでございます。

次に「農業振興と担い手の育成」につきましては、「担い手向け研修会への参加者数」としております。こちらは、十勝全域を対象に実施しております地域農業者合同研修会というものがございまして、平成27年度には12人が参加し、スキルアップに努めているところでありますが、これを一層強化することによりまして、平成31年度には一年間に50人の参加をめざすものであります。

次に「鳥獣害防止対策の推進」につきましては、「鳥獣害による農業被害額」を減少させていくものでして、平成27年度7億6千万円の現状値に対しまして、平成31年度は15%以上の減少をめざし6億4,500万円としております。

次に「地産地消の推進」につきましては、「地産地消関連ホームページへのアクセス件数」を指標としております。普及啓発、情報提供に取り組むものでございまして、「とかちの食卓」などのホームページのアクセス数の増加に取り組みまして、地産地消の推進をはかっていく考えでございまして、平成 27 年度の現状値が 8 万 6 千件のアクセスがございましたが、平成 31 年度には 10 万 1 千件のアクセスをめざすものでございます。

産業振興・地産地消部会からは以上でございます。

【企画作業部会】

続きまして、企画作業部会の担当部分が 1 件ございます。62 ページの一番下、「(8) 航空宇宙産業基地構想の推進」につきましては、構想の実現に向けた機運の向上を示す指標といたしまして、「出展イベントにおけるブース来場者数」を指標としてございます。管内あるいは管外で開催されております宇宙関係のイベントがございまして、毎年継続して出展を予定している 5 つのイベントを対象としております。一部のイベントにつきましては平成 28 年度から出展していますので、現状値は平成 28 年度の合計来場者数 500 人を記載しております。平成 31 年度の目標値は、展示内容の充実などをはかることによりまして、600 人と設定しております。

企画作業部会からは以上でございます。

【座長】

それでは、意見交換を行います。産業振興・地産地消分野の指標について、どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いいたします。

【委員】

農業振興と担い手の育成ということで、研修会の参加者数が 12 人となっていますが、管内でさまざまな研修会、研究会が行われている中で、一部の研修会の人数だけを抽出して指標とするのはいかがなものかと思えます。

また、鳥獣害による被害額ですが、作物によって単価が大きく異なりますので、金額より発生件数などを載せていただければ、より具体的に成果が分かるのではないかと思います。

【産業振興・地産地消作業部会】

ご質問のように帯広市の合同研修会を指標としましたのは、管内町村で管内全体の農業者を対象とした研修会がないということでしたので、これを対象としたところでございます。

【産業振興・地産地消作業部会】

鳥獣害の被害についてですが、十勝総合振興局でとりまとめておりまして、金額の把握が可能なのですが、件数は把握しておりませんので、被害額とさせていただいたものであります。

【委員】

鳥獣害については理解しました。

研修会については、管内の農業者が集まって開いているものがありますので、そういう方々を数に入れないというのは違和感があります。検討できるところがあればお願いします。

【座長】

他団体の数字は拾えないということでしょうか。

【産業振興・地産地消作業部会】

作物ごとの研修会は、ビート、馬鈴薯など作物ごとに農業団体が実施していると思いますが、あくまでも行政関係ということでございます。それらも含めるとかなりの数になると思いますが、今

回は行政のものに限定させていただいております。

【委員】

理解はしますが、十勝の農業者は 12 人しか勉強する気がないのかと見られるのもいかなものかと思しますので、書き方など検討してもらえたらと思います。

【座長】

周りの団体の状況も加味してほしいということかと思えます。
ほかにいかがでございましょうか。

【委員】

観光の目標値が現状値より少なくなっているのは、北海道の数字に合わせたということですが、年々観光客数が増え、インバウンドも積極的に増やしていこうという中で、目標値が現状値を下回るというのはさびしい感じがします。北海道の数字と違って、増加する目標を設定した方がよいのではないかと思います。

【産業振興・地産地消作業部会】

現状値が 1,036 万人、目標値が 1,020 万人ということで、既に目標値を上回っているということですが、この間に平成 25 年度が 967 万人、平成 26 年度が 993 万人、平成 27 年度が 1,036 万人ということで、2 年間で 69 万人も増えたということになっています。ただ、平成 28 年度は台風被害等で上期が 9 % 減となっております、推計では 90 万人ぐらい減少するというところでございます。観光については、社会情勢などに左右される面もございますので、独自の目標設定ではなく、北海道が定めたものを目標として、1,020 万人以上をめざすという考えでございます。北海道が新たな目標を設定した段階、再度検討してまいりたいと思えます。

【座長】

今後見直しもありますし、平成 27 年度現状値をどう表現するかということかと思えます。
ほかにございますか。

【委員】

産業振興のうち、「農業校・産学官連携及び地域ブランドづくりの推進」と「企業誘致の推進」の目標値のところ端数が出ていまして、積み上げだと思いのすけれども、3 年先の目標値としては切りのよいところで、ブランドづくりでは 10 件と、企業誘致については 4 年間の目標ということですので 60 件という形で、長期的な見通しなのでそのような整理はできないでしょうか。

【産業振興・地産地消作業部会】

ブランドづくりですが、9 件より多くをめざす考えではありますが、この内容は帯広市の総合戦略の目標値と整合をとっているものでございます。

【産業振興・地産地消作業部会】

管内全市町村で協議会を設置して、5 年間で 69 件という目標を定めておりまして、このトレンドを基に設定している目標値でございまして、帯広市を含め近隣の工業団地がなくなってきている状況があることも加味しながら定めているものでございます。

【座長】

今回の指標は今後チェックして、達成できた、できないということを確認していかなければならないものですので、根拠のある目標値を定めなければならないということだと思えますので、ご理

解いただければと思います。

ほかにいかがでございましょうか。

【委員】

産業振興のビジョンとして目標に向かって進んでいくということですが、最終的に実績が出るのかどうか、過去の手法が良かったのかどうか、目的を達するためにどう役割分担して努力しようとするのか、その内容がないままに、過去のデータを元に目標を立てていて、あまりにも低い目標だと感じます。十勝の産業は活発化していると見られているわけですから、これからしっかり取り組んでいこうとしていることが分かる数字でなければ、違和感があります。過去の実績、過去の取り組み、それをどう改善・改革してきたか、それぞれの部局で汗をかかなければならないと思います。そういう考え方から目標を立てなければならぬと思いますが、いかがでしょうか。

【産業振興・地産地消作業部会】

今回の目標値は、実績と見通しを踏まえ、さらに取り組みが進められないかという観点から、管内で協議してまいりましたが、全体の調整がつかない目標を掲げることには難しさがございます。ただし、目標値に届けばよいということではなく、これを超えていくことをめざす考え方でございますので、ご理解いただきたいと思ひます。

【座長】

この目標値は、共生ビジョンの取り組みを実現できたかどうかを評価する、最低限クリアすることとございします。ですから、おそらく全体像は入りきらないということかと思ひます。

【委員】

それであれば、農業振興と担い手の育成の参加者が12人とか、50人とかいう数字を出す値があるのかどうか。行政として取り組んでいくということですが、農協もいろいろな研修会を実施していますから、この数字を出すことが果たして目的に沿っているのでしょうか。

【事務局】

定住自立圏の取り組みは、帯広市と管内町村が連携した取り組みを進める計画でございまして、その計画が順調に進んでいるかどうかを評価することが、今回の指標設定の意味合いでございします。十勝全体としてご指摘の研修などは当然ありますけれども、定住自立圏という仕組みの中では、帯広市と町村が連携している取り組みを評価するのが趣旨でございします。ただ、食料自給率を新しい数字に置き換えるなど、十勝の力をしっかり示していくというご指摘も以前ございしました。先ほど座長からもございしましたが、毎年度の評価の中では、行政の研修会の他にも、調べられる範囲で、参考として、管内で取り組まれている研修会、トータルでこのように進んでいるということについても、どこまできちんと把握できるかはございしますが、十勝全体でこのように進んでいるということ参考をしながら、行政の取り組みを評価することができないか、検討していきたいと思ひますが、指標としては、今申し上げたように、帯広市と町村の連携した取り組みを評価するのが趣旨でございしますので、ご理解をいただきたいと思ひます。

【座長】

基本的にはこのように指標を設定するけれども、今後評価する際に、管内のいろいろな動きを併用しながら考えていくということとございしました。よろしいでしょうか。

ほかにいかがでございましょうか。

(質問・意見なし)

【座長】

それでは、以上で、産業振興・地産地消分野に関する意見交換を終わります。

次に、その他の分野について協議を行いたいと思います。資料3について、説明をお願いします。

【環境作業部会】

環境作業部会について説明いたします。

「5 環境」の「(1) 地球温暖化防止に向けた低炭素社会の構築」につきましては、「広域連携啓発事業参加者数」を指標としております。これにつきましては、帯広市において毎年開催している「環境交流会」で、圏域市町村が連携した展示などに取り組みながら、住民の皆さんが意識を高めていただき、さまざまな取り組みを効率的に展開することによりまして、低炭素社会づくりにつながるという考え方で設定するものでございます。平成27年度の現状値ですが、これまで実施してきた中で、年度ごとに参加者数にばらつきがありますので、過去10年間の実績の平均値を基準とする考え方から、1,093と設定しております。これに対して、平成31年度の目標値は1,300人としております。今後、市町村の取り組みのPRのための展示ブースの充実、魅力アップなどによりまして、現状値に対して概ね2割程度の増加をめざすものであります。

説明は以上であります。

【企画作業部会】

続きまして企画作業部会でございます。

「6 防災」の「(1) 地域防災体制の構築」でございますけれども、各市町村における防災体制の充実を示す指標として、「自主防災組織数」を指標としております。平成27年度の現状値は294組織、平成31年度の目標値は484組織ということでございます。目標値は、各市町村で設定したものの合計でございます。

次に、結びつきやネットワークの強化に係る政策分野ですが、「1 地域公共交通」の「(1) 地域公共交通の維持確保と利用促進」につきましては、「十勝管内バス利用者数」を指標としております。これは昨年3月に策定した現在の共生ビジョンの中で既に設定しているものでございまして、平成24年度から平成26年度までの平均値457万人を現状値としております。目標値は462万人としております。

次に「(1) 移住・交流の促進」につきましては、十勝管内の移住関連情報を一体的に発信することの効果を表す指標として「移住者数」を設定しています。平成27年度の現状値は105人ということで、平成31年度の目標値は4年間の累計で616人としてございますが、各市町村が設定した目標値を合計したものでございます。

最後に「(2) 結婚を希望する若者の支援」につきましては、十勝圏域における結婚を希望する若者を支援する情報を一体的に発信する効果を示す指標として、「北海道結婚支援ホームページへのアクセス件数」としております。このホームページは、振興局が設置した結婚支援協議会が昨年8月から運営しているものでありまして、各市町村で開催される結婚を支援するイベント等の情報が掲載されているものでございます。ホームページの公開が昨年8月でございましたので、公開後のアクセス数を基に、平成28年度一年間のアクセス数を800件ということで推計して記載しております。平成31年度目標値につきましては、各市町村での情報共有を進め、内容充実をはかり、約1割増しの900件としております。

説明は以上でございます。

【人材育成作業部会】

人材育成作業部会に関わります成果指標について説明いたします。

「1 人材育成」の「(1) 職員研修及び圏域内人事交流」につきましては、「職員研修（特別研修）の参加者数」を指標としております。職員研修には、受講対象者を指名する基本研修と、公募で受講できる特別研修の2種類がございます。指標は、このうち公募型の特別研修の受講者数を伸

ばすもので、平成 27 年度の現状値は 461 人、平成 31 年度の目標値は 507 人と設定いたしました。この考え方ですが、現在、特別研修の定員数に対する充足率が 86%程度でございますことから、これを 10%増加させることを目標としたものでございます。

人材育成作業部会については以上でございます。

【事務局】

事務局からデータ分析について説明いたします。「圏域レベルのデータ分析・活用」ということで、国が提供しているビッグデータを活用して、人口動向の分析や地域経済の現状を知ることが簡単にできるようになっているところでございます。第 2 期の取り組みとしては、主に次の共生ビジョンを見据えて、今後どのような取り組みが必要か検討して、この懇談会でも随時お知らせしたいと考えておりますが、その分析を行って報告書を取りまとめ、次のビジョンの検討の参考資料にしたいと考えております。指標については、調査分析報告書の作成数として、現状値はゼロ、平成 31 年度の目標値は 1 件としております。ただ、平成 31 年度までの計画でございますので、平成 31 年度までに報告書を作成してもあまり意味がございませんので、今後、新しいビジョンを検討していくまでに整理していくというスケジュールで進めてまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

【座長】

それでは、意見交換を行います。各分野の指標について、どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いいたします。

(質問・意見なし)

【座長】

なければ、最後に、全体を通して、ご意見、ご質問などがあれば、ご発言をお願いいたします。

【委員】

先ほどからも何度か言われていますが、現状値、数字の出し方が、推計であったり、平均であったり、実績であったり、都合の良いよう数字を出しているように見えてしまいます。汗をかいて数字を出したのか、全く見えてきません。数字の出し方などを十分に検討していただきながら今後進めていただかないと、このビジョンそのものが意味をなさないと心配されますので、ぜひとも検討していただくようお願いします。

【事務局】

この定住自立圏は、帯広市を中心市として、管内町村と連携して取り組むということで、今、2 期目に入っておりますが、評価の仕組みをしっかりと構築するため、今回、指標を設定するというところでございます。ただ、19 市町村が一緒になった取り組みを評価するということは、私どもにとっても初めてのことでございますので、これまで取り組んできて実績をしっかりと把握している数字を足掛かりに、今後の取り組みの改善につなげていくということでございます。こういう数字の取り方が 100 点満点かとなると、当然さまざまな課題があると思いますし、評価の目的は取り組みの改善や次のビジョンをつくるためですので、毎年度の懇談会の中で、実績をお知らせして、その背景や今後どうするのかを事務局や部会で検討いたしまして、取り組みの改善につながるようにしていく。加えて、その中で、いろいろ比較検討をして、数字の取り方が妥当でない部分も出てくるかと思えます。これは毎年度の協議の中でご意見をいただきながら、場合によっては見直しもございまして、次のビジョンを策定する中で、今後の 4 年間の取り組みをいかしていくことが重要と考えております。100 点ではないかも知れませんが、ぜひ今後の協議の中でも重ねてご意見を頂戴したいと考えております。

【座長】

成果指標を出したことで、活発に議論する第一歩になったと思います。直接的に成果を表すものかどうかという意見もありましたけれども、これを第一歩として、本来の趣旨であります見直しの際などにつなげていただければと思います。

ほかにかがでございましょうか。

(質問・意見なし)

【座長】

それでは、修正箇所について、事務局から確認をお願いします。

【事務局】

今回の修正箇所を再度確認させていただきます。提出資料3をご覧ください。

表紙ですが、「平成29年3月第2回変更」と追加しております。

目次ですが、第1章の5を削除し、第4章の5に一括して掲載します。また、人口の関係で国の推計を追加しておりますので、ページ番号を調整しております。

2ページでございます。第1章の5として、定住自立圏の成果目標として二つ掲載しておりますが、第4章にまとめて掲載いたしますので、削除いたします。

13ページでございます。国の推計を掲載いたしますが、年少人口、生産年齢人口、老年人口の実数だけではなく、割合を追加いたします。

36ページは、右下の「人口の将来展望」を掲載いたします。先ほど説明のとおり、年少人口、生産年齢人口、老年人口の実数がございませんので、これを追加いたします。

62ページ、63ページでございます。ただ今ご議論いただきましたけれども、事務局の提案のように追加させていただきます。

70ページでございますが、泉委員に新たに就任いただきましたので、修正いたします。

最後に裏表紙ですが、こちらにも「平成29年3月 第2回変更」を追加いたします。

以上が変更点でございますが、細かな表現などにつきましては、座長にご一任いただければと思います。説明は以上でございます。

【座長】

それでは、お諮りいたします。ただ今、事務局から説明があったPDC Aサイクルに関わります修正箇所、これを了承してよろしいでしょうか。

(質問・意見なし)

【座長】

ご異議なしと認めまして、そのように取り扱いをいたします。

事務局におかれましては、本日のご意見、特に目標設定について、目標値や指標設定そのものが適切かどうか、さまざまなご意見がございましたので、今後、見直しも含め、PDC Aサイクルを回していただくようお願いいたします。

4 その他

【事務局】

- ・平成28年第2回会議で質問があった119番通報の件について説明
- ・6月末で任期満了・7月改選予定、これまでの協力に謝辞

【座長】

皆様から、全体を通じての確認、あるいは何かご質問等ございましたら、ご発言願います。

(質問・意見なし)

5 閉会

【座長】

ないようでしたら、以上をもちまして、本日の会議の日程は全て終了いたしました。円滑な会議運営にご協力いただき、誠にありがとうございました。

これをもちまして、第3回目の懇談会を閉会いたします。本日はお疲れ様でした。